

## 第8回

# 朝霞市都市計画マスタープラン庁内検討委員会 議事録

令和7年9月30日

都市建設部 まちづくり推進課

様式第3号（第13条関係）

会議録

会議の名称	朝霞市都市計画マスタープラン庁内検討委員会	
開催日時	令和7年9月30日（火） 午前10時00分から 午前11時30分まで	
開催場所	朝霞市役所 本館5階 502会議室	
出席者及び欠席者の職・氏名	別紙のとおり	
議題	別紙のとおり	
会議資料	別紙のとおり	
会議録の作成方針	<input type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした全文記録	
	<input checked="" type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした要点記録	
	<input type="checkbox"/> 要点記録	
	<input type="checkbox"/> 電磁的記録での保管（保存年限 年）	
	電磁的記録から文書に書き起こした場合の当該電磁的記録の保存期間	<input checked="" type="checkbox"/> 会議録の確認後消去 <input type="checkbox"/> 会議録の確認後 か月
	会議録の確認方法 委員全員による確認	
傍聴者の数	なし	
その他の必要事項	なし	

第8回朝霞市都市計画マスタープラン庁内検討委員会

令和7年9月30日（火）

午前10時00分から

午前11時30分まで

朝霞市役所 大会議室（手前）

1 開 会

2 挨 拶

3 議 題

都市計画マスタープランの策定について

4 閉 会

---

出席委員（14人）

委 員 長	都市建設部長	松 岡 里 奈
副 委 員 長	都市建設部審議監兼都市建設部次長兼まちづくり推進課長	村 沢 敏 美
委 員	市長公室市長公室次長兼政策企画課長	櫻 井 正 樹
	（代理 市長公室政策企画課係長	石 崎 博 貴
委 員	市民環境部市民環境部次長兼地域づくり支援課長	中 川 隆
委 員	都市建設部都市建設部次長兼開発建築課長	塩 味 基
委 員	都市建設部みどり公園課長	松 下 俊 一
委 員	上下水道部上下水道部次長兼下水道施設課長	久保田 哲 人
委 員	こども・健康部次長保育課長	玄 順 正 明
委 員	副審議監兼危機管理室長	小野澤 誠
委 員	福祉部次長兼長寿はつらつ課長	並 木 智 彦

学識経験者（１人）

学 識 経 験 者      麗澤大学准教授

須 永 大 介

---

事務局（７人）

事 務 局      都市建設部まちづくり推進課主幹兼課長補佐

持 田 宏 行

事 務 局      都市建設部まちづくり推進課都市計画係長

村 岡            拓

事 務 局      都市建設部まちづくり推進課都市計画係主事

宮 下 洋 子

事 務 局      (株)国際開発コンサルタンツ

松 下 佳 広

事 務 局      (株)国際開発コンサルタンツ

矢 嶋            聡

事 務 局      (株)国際開発コンサルタンツ

万                毅

事 務 局      (株)国際開発コンサルタンツ

伊 藤 彩 夏

---

審 議 内 容 （ 発 言 者 、 発 言 内 容 、 審 議 経 過 、 結 論 等 ）
---

■議題「都市計画マスタープランの策定について」

○石崎委員

資料２の目次構成で「わたらしい暮らし」と「にぎわい・活力」が逆となっている。。

○事務局

ご意見を踏まえ、修正をする。

資料２の９ページで資料の立て付けを示しており、都計審では土台から説明している順を踏襲し、「にぎわい・活力」⇒「私らしい暮らし」の順で説明させていただいている。

○塩味委員

それぞれの施策の担当課が不明となっており、どのように判断したらよいか。

○事務局

追加で配布した資料に、各テーマにおける施策について想定される所管課を記入した上で、各課に確認していただく。後日再度配布するので、ご協力をいただきたい。

最終的に計画書に各担当課を掲載する予定はないが、事務局のバックデータとしておきたい。

現行計画の最終章にPDCAのサイクルは記載してあるが、実際実施できていない。

今回の計画改訂を機に、各施策の所管課を明確にし、継続的に施策や事業等を管理できるようにしておきたい。

○小野澤委員

事業の進捗管理をするということは、実施計画をつくるということなのか。

○事務局

そこまで考えていないが、総計と連携して管理していくことを想定している。

○小野沢委員

資料３は各地域の将来像を提案しているが、南部地域だけは将来像に「楽しい」という感嘆的な表現を使用しており、「楽しい」という表現は適切なのか。

内間木地域の現状・課題に「内水氾濫による道路閉塞」とあるが、その表現は適切なのか。

○事務局

南部地域の将来像については事務局でも悩んだ末の表現となっている。南部地域ではまちづくりサロンにおいて「賑やかで、地域で繋がるまちになるといい」という意見があったことから「楽しい」という表現を用いている。ただし、他地域とは異なるニュアンスとなっていることから、表現を再調整したい。

「道路閉塞」という表現については他課と調整した上で再検討したい。

○久保田委員

西部地域の将来像もざっくりしたイメージがあり、他の地域と比べバランスがとれていないような感じがする。

○事務局

ご意見を踏まえ、5地域のバランスを考慮しつつ将来像の表現を考えていきたい。

○松下委員

ほかの地域は抽象的な将来像としている一方で、内間木地域だけ「254バイパス」を特出した表現となっている。ほかの地域と合わせて抽象的な表現としてはどうか。

○事務局

内間木地域では254バイパスの整備に合わせた取組を多く検討しており、地域にとって目玉の取組となることからあえて特出している。ご意見を踏まえ、ほかの地域とのバランスを考慮して検討したい。

○並木委員

資料4-1の8ページで、「世代間の交流を促す施設立地（高齢者支援施設のまちなかへの誘導）」という表現はちょっとハレーションが想定されるが、この表現について担当課と相談していただきたい。

○事務局

担当課と調整を図りながら表現を検討したい。

○久保田委員

浄水場はあまり公開できない施設となっているため、記載するのであれば浄水場とはなしあってからのほうがよい。

○事務局

まちづくりサロンでは多く意見をいただいているため、ここでは記載している。浄水場と地域の連携を図れたらよいと考え、また現行計画においても「災害時に浄水場の連絡体制」と位置付けがあり、その踏襲でここも記載している。

○並木委員

北部地域の取組にある「地域に開かれた東京都朝霞浄水場に向けた検討」について、東京都との連携の温度感を知りたい。まちづくりサロンで強い要望があったことは理解できるが、実現性や表現に注意すべきと思う。

○事務局

高齢者支援施設は朝霞市立地適正化計画にて誘導施設と位置付けられており、包括支援センターをまちなかに誘導する方針が定められている。都市計画マスタープランは20年後を目指す計画であることから、その取り組みをここで位置付けている。

○並木委員

包括支援センターはまちなかに集中していいが、具体的な施設に関しては検討が必要と思う。

○事務局

具体的な施設に関する表現は担当課と調整する。

また、浄水場については「地域に開かれた」という表現は見直しが必要である。一方、浄水場を活用したイベントの開催や安全・安心の確保に向けた浄水場との連携、更に私らしい暮らしにおいても浄水場の利活用など、各テーマの取組として挙げられており、東京都との連携を図りながら浄水場を活用したまちづくりを実現していきたいと考えている。

○小野澤委員

資料4-1の4ページで、方針図に現在立地している避難所が図示されているが、将来の方針図に現況の施設立地を載せることに違和感がある。

図面上土砂災害警戒区域と思われる黄色と土砂災害特別警戒区域と思われる赤色の箇所の一部しか「①災害リスクの低減・回避（土砂災害）」との説明を示していないが、例示という理解でよいのか。

家屋倒壊等氾濫想定区域・土砂災害は「居住誘導」の施策のみで、重さは水害対策と異なるが、取り組みのバランス的によいか。

○事務局

避難所については現在立地している施設を示しており、そのことがわかりやすいような表現に見直しをする。図の中にある「土砂災害警戒区域」「土砂災害特別警戒区域」の旗揚げは凡例として理解していただきたい。わかりにくい部分もあるので、より分かりやすいように再整理したい。災害リスクへの対策について追って調整させていただきたい。

○中川委員

資料4-1の7ページで、例示で「ASAKA STREET TERRACE」を挙げるのは分かりやすいが、長いスパンを持つ計画に記載して良いか。

○事務局

都市計画マスタープランは20年先を見据えた計画であるため、ご意見を踏まえ、調整したいと考えている。

○松岡委員長

資料について照会期間を設けるため、他にご意見等があれば事務局へご連絡いただきたい。

○須永委員

資料の温度感について、都市計画マスタープランは市民への宣言であると理解しており、庁内検討会議及び都市計画審議会はその内容を検討する場として重要であり、必要かつ十分な議論ができるような資料を作っていただきたい。内容について、これから個別調整していただく中で、庁内、庁外ともにハレーションのない計画を作るように調整をお願いし、将来像は地域の目指す姿を表現する大事なものである。そのため、地域ならではの、地域らしさを表現した文言となるよう、しっかりと精査していただきたい。

「地域資源」は市民にとって難しい言葉であり、わかりやすい言葉に見直してもらいたい。

幅のある言葉も要注意であり、例えば南部地域の将来像に「楽しい」という言葉が使われているが、違和感のある表現であるため再検討してもらいたい。